

1 日時 令和6年6月10日(月) 13:50~16:00

2 会場 三島長陵高等学校

4 参加者

(1) 学校運営協議会委員(1名欠席)

堅田淳子様 勝又博様 小松照夫様 瀬川貴子様 三好徹史様

(2) 学校教職員

校長 副校長 教頭 事務長

3 内容

(1) 授業・施設見学

(2) 学校運営協議会

ア 校長挨拶

「学校評議員会」から「学校運営協議会」へ

学校運営協議会の機能「学校運営の基本方針の承認(ビジョンの共有)」「学校運営について意見を述べる」「教職員の任用に関して意見を述べる」

生徒の様子「授業遅刻の激減」「挨拶、生徒の反応が良い」「部活動の活躍(剣道・バドミントン・柔道は全国大会へ、男子バスケットボール部は県大会4位)

生徒に求めていること「ステキな人になる決意を固めてほしい」

魅力ある学校へ「第一希望として堂々と入学してほしい」

イ 委員長・副委員長選出

委員長に三好徹史委員、副委員長に堅田淳子委員を選出

ウ 令和5年度学校関係者評価実施報告書について

校長より取り組みに係る評価の説明

エ 令和6年度学校経営計画について⇒委員の了承を得る

校長より計画について説明「昨年度の学校評議委員会からの指摘を受け、スクールポリシーに達成目標(取組手段)と成果目標が連動するように見直した。」

「今年度は、東部の生涯学習の拠点として、本校内にあるふじのくに中学校、放送大学との連携を強化したい。」「創造性を育成するために生徒に主体的に部活動や学校行事に取り組みませたい。」

オ 学校運営協議会委員からの助言

- ・(欠席が少ないとの説明を受け)確かに昨年度に比べ、学校内に生徒が多くいる印象がある。生徒がしっかり学校に来ているのはいいことである。
- ・今後の課題は、生徒の確保ではないか。この地域の15歳人口は、10年後、30%減ると言われている。生徒確保のために長陵高校の教育を地域に発信する必要がある。

- ・長陵のメリットは少人数教育による手厚い指導にあるが、地域に知られていないのではないかな。
- ・インターンシップ制度等を活用し、地域とのコラボができればよい。
- ・学校の魅力発信のもっとも大きい効果は、生徒自身の姿である。退学すると地域からはみ出てしまい、学校の評判にも影響する。
- ・現在は、欠席する生徒が少ないとのことだが、何故、生徒が学校に来ているのかを検証し、欠席を少なくする方策を継続することが必要である。
- ・勉強が分からない生徒は、学校に来ない。授業の工夫をお願いしたい。
- ・取組手段がスクールポリシーに繋がることを理解した。目標達成、数字をクリアすることも必要だが、見通しを持ち、目標達成が難しいと判断した場合は、早めに次の手を打つことも大事である。たとえ目標が達成できなくとも、来年に生かすことができる。数値的な目標よりも生徒がどう育ったかが大事である。
- ・授業の参加状況が良好であるとのことだったが、それは全体の傾向であり、科目別・教員別ならどうか。先日講演会で、自分の授業を録画で見るという話を聞いた。このような取り組みをすることで、授業改善をすすめてほしい。

(3) その他

第2回学校運営協議会は、11月9日（土）に開催する。